

Journal of the International College
for Postgraduate Buddhist Studies
Vol. XII, 2008

国際仏教学大学院大学研究紀要
第12号（平成20年）

袋中蒐集一切経の来歴と現況

三
宅
徹
誠

袋中蒐集一切経の来歴と現況

三宅徹誠

はじめに

袋中良定（一五五二～一六三九）は、江戸時代初期の浄土宗名越派の学僧である。慶長八年（一六〇三）に琉球に渡り三年間滞在した後、本土に戻り、京都において、木幡の浄土寺で住持し、慶長十六年（一六一一）に檀王法林寺を、元和五年（一六一九）に袋中庵を開いた。そして、元和八年（一六二二）に南都に移住した。その時、降魔山善光院念仏寺を草創し、そこに経蔵を建立した。その後、瓶原（現在の京都府木津川市加茂町）に拠点を置き、弟子たちとともに各地で一切経を蒐集した。不足の分については自ら書写して補い、一切経を念仏寺の経蔵に納めた。これが袋中蒐集の念仏寺一切経である。

しかし、現在、念仏寺に経蔵は残るものの、一切経はほぼ全て散逸し、数点を残すのみである。散逸した袋中蒐集一切経は、国内外を問わず散存する状況となっている。一体、どこにどのような袋中蒐集一切経が存在するのか、様々な機関の目録類を精査し、また実地調査を行った結果、徐々に明らかになってきた。そこでまず、現存する袋中蒐集一切経についてその所在を明らかにして、その特徴などを吟味し、更に、現存する經典の奥書な

どの情報から、袋中がどのような所から一切経を入手したのか、その来歴について明らかにしていくのが本論の目的である。

一、袋中蒐集一切経の概要

(一) 一切経蒐集の経緯

袋中の一切経蒐集の経緯については、拙論「袋中上人の一切経蒐集について」で詳述したが、ここでも簡単に述べておく。袋中は、元和八年(一六二二)に念仏寺を草創した後、瓶原に居を移し、それから本格的に古経蒐集活動に入った。

横山重氏による『袋中上人伝』翻刻文には、次のような記述がある。

その頃浄琉璃寺の殿堂破壊に及ければ、闕本の一切経をあがなひて修復せんと、衆僧の評議一定しぬ、上人これをき、使を遣し若干銀を贈りて、經典を奉請す、後に脱卷逸帙の経論をば或はみづから書写し、或は他をたのみて書写せしむ、これによりて経論欠ることなく一蔵全備せり、その中に紺紙金泥の経論多し、今南都念佛寺の蔵本これなり。⁽¹⁾

つまり、当時浄琉璃寺にあった不揃いの一切経を購入し、そこで取得できなかった經典については、袋中自身や他の者が書写して一切経を完備したということである。

また、念仏寺経蔵棟札には次のような記述がある。

南无阿弥陀佛／山州相樂郡甕原天神林山居而經／二春其内(寛二)求大般若(海住山一坊)五大部(笠置一

坊) / 本經者西小田原九躰佛藏也依人々志少々取 / 籠了。同(十五)年書此札。老躬八十七歲袋中(花押)^②
寛永二年(一六二五)、海住山寺に『大般若經』を、笠置寺に五大部を求めたようである。袋中の著書『寤寐集』には「寛永三丙寅二月初、笠木寺ヨリ五部ノ大乘經ヲ得タリ。」^③とあり、笠置寺の五大部は、求めてから約一年後に入手している。

このようにして、一切経を完備し、念仏寺経藏に納めた。これが袋中蒐集の念仏寺一切経である。しかし、袋中が念仏寺経藏に納めなかつた經典もあるようで、例えば檀王法林寺藏『頻毘娑羅王詣仏供養經』は、寛永三年(一六二六)に檀王法林寺に納めている。^④それらを含めて、(ここでは袋中蒐集一切経と呼ぶことにする。

(二) 袋中蒐集一切経の内容

浄瑠璃寺だけでなく、海住山寺や笠置寺など他方に經典を求め、また袋中などが当時書写した經典もあることから、その内容は、書写年代が異なる様々な經典の集合であることは推測できよう。

念仏寺所藏文書の嘉永七年「口上覚」には、一切経蒐集の状況が述べられている。

然ルニ、開基袋中上人、弟子二世良等空山和尚ト師弟、年来力を尽し、明板木板、尚不揃者、袋中上人墨跡惣一体補修料等貴賤志之もの江奉加御寄進被乞一切經全部相揃。經堂ハ勢州ニおゐて身柄不改信心者、袋中上人帰依之大旦那野村治左衛門施主。則本堂軒先より貳拾間余、經堂御拝雨落迄隔り 開化天皇御陵前御宣命場と存候所より纔ニ貳間余隔り、御正面ニ三間四方之經堂、寛永年中建立、右經類部分悉結講成函入奉納。依之世俗共弁者無之候得共、一切經日本判木摺ニ而も、新造仕立候ハ、大凡貳百金も相懸ル由、況日本世上ニ而者稀成唐判摺又者開基之墨跡寶物菩提所ニ御座候義ヲ自慢悦。

以上から、袋中蒐集一切経には宋版・明版が含まれていたことがわかる。また「唐判摺」があつたというが具

体的にどのようなものか不明である。「稀成」とあるので貴重なものであったようである。また、先程挙げた『袋中上人伝』に「その中に、紺紙金泥の経論おほし。」とあるように、紺紙金泥の写経も含まれていたことがわかる。

(三) 袋中蒐集一切経の特徴

現存する袋中蒐集一切経を精査した限り、その特徴は以下のものである。

- ① 「一切経南都善光院」の朱印が押されている。
- ② 内題下に、袋中が墨書で経典の内容に関する説明をしている。
- ③ 経文中に、袋中の校正墨書がある。
- ④ 仏船という僧侶の墨書がある。

以上の特徴の内、一つでも有していれば袋中蒐集一切経と言えよう。①の「南都善光院」とは念仏寺のことである。念仏寺の正式名称は「降魔山善光院念仏寺」である。②③に挙げたように、袋中の墨書があることが特徴であるが、袋中の筆跡は非常に癖があるため判断しやすすい。④の仏船とは、その経歴は未詳であるが、藤堂恭俊氏が「養鵬徹定の古経蒐集と南都念仏寺蔵古経」(以下、藤堂恭俊「二九七三〇」)の中で、仏船と念仏寺一切経との関連について述べている。知恩院蔵『首楞嚴三昧経』巻下の巻末に「微笑一校 佛船」とあり、跋として「菩提本無樹明鏡又非臺 本來無一物何處有塵埃 咳 元禄二己巳二月十七日 南都念佛寺於經藏書 佛船花押」と墨書がある。つまり、まぎれもなく仏船が念仏寺の経蔵において閲蔵し一校をとげたのである、と指摘している。また、養鵬徹定(一八一四〜一八九二)が念仏寺経蔵から入手した『菩薩処胎経』にも仏船の墨書がある。仏船と念仏寺との関係は藤堂氏により明らかになったが、仏船については、前述の跋から元禄年間に存在したことが

わかるのみで、それ以外の事績は不明である。

念仏寺経蔵に納めたと考えられるものは、卷子本を折本に修補しているものが多いと考えられるが、檀王法林寺などに納めた貴重な古写経などは卷子本のままである場合が多い。例えば、前掲の奈良時代写である檀王法林寺蔵『頻毘娑羅王詣仏供養経』は卷子本であるが、同じく奈良時代写の念仏寺蔵『過去現在因果経』五巻は折本に改装されている。

二、袋中蒐集一切経の現況

念仏寺経蔵の袋中蒐集一切経は、江戸末期にほぼすべて散逸した。散逸の経緯については別稿に譲るが、少しずつ流出していったのではなく、短期間に流出したようである。ちょうどその散逸の直前頃の嘉永五年（一八五二）三月、当時増上寺にいた養鷗徹定は、増上寺第六十六世慧嚴の命により法然院へ行き、忍澂（一六四五〜一七一〇）の『大蔵経対校録』を謄写した。そのとき、大蔵経には誤脱のあることを遺憾とし、より確実な蔵経の定本をつくるために古写経を搜索蒐集しようとしたようである。⁵⁾そのときに、南都に行き念仏寺を訪れ貴重な古写経のあることを知った。そして、念仏寺一切経が流出した時、それらの古写経類を入手した。養鷗徹定が、後に知恩院に晋山した際に、それらの古写経も知恩院へ移し納めたので、知恩院所蔵の袋中蒐集一切経が群を抜いて多いのである。

ただ、養鷗徹定は、自らの著書において、どの古写経を念仏寺より取得したかを明確に述べていない。念仏寺蔵書印や袋中の墨書などがあるものは確定できるが、そうでないものはわからない。そこで、藤堂恭俊「一九七

三」は、まず、養鷗徹定の著書『古経搜索録』に記載された經典で、且つ増上寺に納められたものを選別した。つまり、『古経搜索録』記載の經典と、同じく養鷗徹定著『古経題跋』卷下「武州縁山古経堂藏」記載の經典とで重なるものを選別し、次に『古経題跋』卷下「武州縁山猶龍窟」記載の經典とで重なる經典を抜き出した。その選別した中から、袋中の墨書などを手がかりとして四十四部を確定した。^⑥ここに知恩院藏袋中蒐集一切経が明らかになったのである。

それらを含めて、確認できた袋中蒐集一切経の一覧表を掲載した。表は、写経の部と版経の部に分けた。袋中が草創・復興した念仏寺・檀王法林寺所藏分をはじめ、筆者が実見したものの、目録等に掲載されているものなどを挙げた。まだまだ抜けているものがあると思われるので、現段階では中間報告の意味合いが強い。目録等に依拠して判別したものについては、その掲載情報以外のことはわからない。よって、念仏寺藏書印や袋中の墨書などの有無については、実見した經典を除き、わかる範囲で示したものであり、空欄であるからといって印や墨書がないとは限らない。その点はご了承ください。また、現段階でわかる限りの来歴を載せておいた。表の念仏寺藏書印について、○印は「一切経南都善光院」（朱印）のあるもの、△印は「一切経〔南都降魔山／善光院念仏寺〕門外不出」（墨印）のあるものである。ただし、佼成図書館藏『大般若波羅蜜多経』卷二百六十八は、目録に「南都降魔山善光院念仏寺」としかなく詳細は不明であるが、ここでは△印にしておいた。

〔表一〕 現存袋中蒐集一切経一覽・写経の部

經名	卷次	書写年代	念仏寺 藏書印	袋中 墨書	仏船 墨書	來歴	所藏場所	出典
大般若波羅蜜多經	卷二七〇	奈良時代	△	○			念仏寺	(調査済)
過去現在因果經	卷一	奈良時代		○			念仏寺	(調査済)
過去現在因果經	卷二	奈良時代					念仏寺	(調査済)
過去現在因果經	卷三	奈良時代					念仏寺	(調査済)
過去現在因果經	卷四	奈良時代					念仏寺	(調査済)
過去現在因果經	卷五	奈良時代		○			念仏寺	(調査済)
如幻三昧經	卷一			○			念仏寺	(調査済)
如幻三昧經	卷二						念仏寺	(調査済)
如幻三昧經	卷三						念仏寺	(調査済)
如幻三昧經	卷四			○			念仏寺	(調査済)
文殊仏利功德莊嚴經	卷下	平安末期				金峯山寺一切経	念仏寺	(調査済)
七知経	一卷	奈良時代					檀王法林寺	(調査済)
頻毘娑羅王詣仏供養経	一卷	奈良時代		○			檀王法林寺	(調査済)
集諸経礼懺儀	卷上	平安末期				中尊寺経	檀王法林寺	(調査済)
集諸経礼懺儀	卷下	平安末期				中尊寺経	檀王法林寺	(調査済)
瑜伽師地論	卷八・九	天平七年 (七三五)	○				知恩院	華頂山古経目録
瑜伽師地論	卷一八〇二八		○				知恩院	華頂山古経目録
瑜伽師地論	卷二九	正治元年 (一一九九)	○				知恩院	華頂山古経目録

袋中蒐集一切經の來歴と現況 (二三七)

瑜伽師地論	卷六四	天平七年 (七三五)	○				知恩院	華頂山古經目錄
瑜伽師地論	卷六三	天平七年 (七三五)	○				知恩院	華頂山古經目錄
瑜伽師地論	卷六一						知恩院	華頂山古經目錄
瑜伽師地論	卷五八						知恩院	華頂山古經目錄
瑜伽師地論	卷五七	天平七年 (七三五)	○				知恩院	華頂山古經目錄
瑜伽師地論	卷五六						知恩院	華頂山古經目錄
瑜伽師地論	卷五五	天平七年 (七三五)	○				知恩院	華頂山古經目錄
瑜伽師地論	卷五四	天平七年 (七三五)	○				知恩院	華頂山古經目錄
瑜伽師地論	卷五三						知恩院	華頂山古經目錄
瑜伽師地論	卷五二	天平七年 (七三五)	○				知恩院	華頂山古經目錄
瑜伽師地論	卷五一						知恩院	華頂山古經目錄
瑜伽師地論	卷五〇	延暦六年 (七八七)	○				知恩院	華頂山古經目錄
瑜伽師地論	卷四九	平安前期	○				知恩院	華頂山古經目錄
瑜伽師地論	卷四五～四八						知恩院	華頂山古經目錄
瑜伽師地論	卷四四	宝龜十一年 (七八〇)	○				知恩院	華頂山古經目錄
瑜伽師地論	卷三〇～四三						知恩院	華頂山古經目錄

菩薩処胎経	卷四	大統十六年 (五五〇)				〇		知恩院	華頂山古経目録
菩薩処胎経	卷三	大統十六年 (五五〇)				〇		知恩院	華頂山古経目録
菩薩処胎経	卷二	大統十六年 (五五〇)				〇		知恩院	華頂山古経目録
菩薩処胎経	卷一					〇	金峯山寺一切経	知恩院	華頂山古経目録
瑜伽師地論	卷一〇〇	天平七年 (七三五)		〇				知恩院	華頂山古経目録
瑜伽師地論	卷九九	天平七年 (七三五)		〇				知恩院	華頂山古経目録
瑜伽師地論	卷九八							知恩院	華頂山古経目録
瑜伽師地論	卷九七							知恩院	華頂山古経目録
瑜伽師地論	卷九〇〜九六	天平七年 (七三五)		〇				知恩院	華頂山古経目録
瑜伽師地論	卷七〇〜八九							知恩院	華頂山古経目録
瑜伽師地論	卷六九	天平七年 (七三五)		〇				知恩院	華頂山古経目録
瑜伽師地論	卷六八	天平七年 (七三五)		〇				知恩院	華頂山古経目録
瑜伽師地論	卷六七							知恩院	華頂山古経目録
瑜伽師地論	卷六六	天平七年 (七三五)		〇				知恩院	華頂山古経目録
瑜伽師地論	卷六五	天平七年 (七三五)		〇				知恩院	華頂山古経目録

妙法蓮華經優波提舍	卷上	江戸初期					お茶の水図書館蔵新修成實堂文庫善本書目
妙法蓮華經優波提舍	卷下	江戸初期				お茶の水図書館蔵新修成實堂文庫善本書目	お茶の水図書館蔵新修成實堂文庫善本書目
別訳雜阿含經	卷二〇	仁平元年 (一一五一)	○	○		大東急記念文庫	大東急記念文庫貴重書 解題
説妙法決定罪障經	一卷	承安四年 (一一七四)	○	○	浄瑠璃寺一切經	大東急記念文庫	大東急記念文庫貴重書 解題
智炬陀羅尼經	一卷	承安四年 (一一七四)		○	浄瑠璃寺一切經	大東急記念文庫	大東急記念文庫貴重書 解題
大方等大集經	卷四		○		大和国山辺郡下 深川莊社頭御經	大東急記念文庫	大東急記念文庫貴重書 解題
仏本行集經	卷五〇	仁平年間 (一一五一 ～一五四)	○			恩頼堂文庫	四天王寺国際仏教大 学所蔵恩頼堂文庫分類目 録
仏本行集經	卷五三	平安末期	○	○		阪本龍門文庫	龍門文庫善本書目
大般若波羅蜜多經	卷二六八	建曆三年 (一一二三)	△			佼成図書館	佼成図書館善本書目録
幻土仁賢經	一卷	保延六年 (一一四〇)	○		金峯山寺一切經	東北大学附属図 書館	東北大学附属図書館別 置本目録
龍王兄弟經	一卷		○			中国国家図書館	(調査済)
阿含須摩提女經	一卷		○			中国国家図書館	(調査済)
弥勒菩薩所問本願經	一卷	康治元年 (一一四二)	○	○		中国国家図書館	(調査済)
正法念処經	卷二	平安末期		○	金峯山寺一切經	中国国家図書館	(調査済)

正法念処經	卷四	平安末期				金峯山寺一切經	中国国家図書館	(調査済)
正法念処經	卷七〇	平安末期	○	○		金峯山寺一切經	中国国家図書館	(調査済)
大集經月藏分	卷二		○			大和国山辺郡下 深川莊社頭御經	中国国家図書館	(調査済)
堅固女經	一卷		○	○			中国国家図書館	(調査済)
大乘密藏經	卷上			○			中国国家図書館	(調査済)
金剛頂瑜伽他化自在天理趣会普 賢修行念誦儀軌	一卷		○	○			中国国家図書館	(調査済)
普遍光明清淨熾盛如意宝印心無 能勝大明王随求陀羅尼經	卷上		○	○			中国国家図書館	(調査済)
普遍光明清淨熾盛如意宝印心無 能勝大明王随求陀羅尼經	卷下		○	○			中国国家図書館	(調査済)
底哩三昧耶不動尊威怒王使者念 誦法	一卷			○	○		中国国家図書館	(調査済)
毘陀劫三昧普日賢劫定意經	十三卷		○		○		中国国家図書館	(調査済)
大乘理趣六波羅蜜多經	十卷		○				中国国家図書館	(調査済)
顯揚聖教論	卷三	平安末期					山東省濟南市張 景杖氏	石塚晴通 [二〇〇二]
顯揚聖教論	卷四	平安末期					山東省濟南市張 景杖氏	石塚晴通 [二〇〇二]
中阿含經	卷四九	平安末期	○			金峯山寺一切經	甘肅省図書館	甘肅藏敦煌文獻
大般若波羅蜜多經	卷二五八		△				高瀬承嚴氏	第二十三回大藏会展観 目録
大般若波羅蜜多經	卷二六六		△				小川白楊氏	第四回大藏会陳列目録

因明正理論本	一卷	承安四年 (一一七四)	○			浄瑠璃寺一切経	小川白楊氏	第三回大藏会陳列目録
仏本行集経	卷三四		○				上村観光師	第一回大藏会陳列目録
拔除罪障呪王経	一卷	孝謙天皇宸 翰					今津洪嶽博士	第四十八回大藏会展観 目録

〔表二〕 現存袋中蒐集一切経一覽・版経の部

経名	卷次	系統	念仏寺 藏書印	袋中 墨書	来歴	所蔵場所	出典
大宝積経	卷七一	南宋・思溪版	○			東大寺	奈良県所在中国古版経 調査報告書
阿毘曇毘婆沙論	卷十三	南宋・思溪版	○	○		法隆寺	法隆寺の至宝
衆事分阿毘曇論	卷一	宋版(詳細未詳)	○			知恩院	華頂山古経目録
大般涅槃経	卷十四	宋版覆刻か(詳細未詳)	○		大和国山辺郡下深 川荘社頭御経	大東急記念文庫	大東急記念文庫貴重書 解題
出曜経	卷八	宋版(詳細未詳)				大東急記念文庫	大東急記念文庫貴重書 解題
法苑珠林	卷十三	宋版(詳細未詳)	○			大東急記念文庫	大東急記念文庫貴重書 解題
法苑珠林	卷三九	宋版(詳細未詳)	○			大東急記念文庫	大東急記念文庫貴重書 解題
大方広菩薩藏文殊師利根本儀 軌経	卷十四	開元寺版	○			お茶の水図書館成笈堂文 庫	お茶の水図書館蔵新修 成笈堂文庫善本書目
般若燈論	卷十三	宋版(詳細未詳)	○			静嘉堂文庫	静嘉堂文庫宋元版図録

袋中蒐集一切経の来歴と現況 (二七)

佛母出生三法藏般若波羅蜜多經	卷二一	宋版(詳細未詳)	○			京都府立総合資料館 重書目録	京都府立総合資料館貴 重書目録
大宝積經	卷八七	宋版(詳細未詳)	○			京都府立総合資料館 重書目録	京都府立総合資料館貴 重書目録
一切如來安像三昧儀軌經	一帖	宋版(詳細未詳)	○			京都府立総合資料館 重書目録	京都府立総合資料館貴 重書目録
大乘不思議神通境界經	卷中	宋版(詳細未詳)	○			京都府立総合資料館 重書目録	京都府立総合資料館貴 重書目録
弥勒菩薩所問經論	卷五	宋版(詳細未詳)	○			京都府立総合資料館 重書目録	京都府立総合資料館貴 重書目録
佛母出生三法藏般若波羅蜜多經	卷十	宋版(詳細未詳)	○		東北大学	アジアむかしの本のも のがたり	アジアむかしの本のも のがたり
大方広仏華嚴經(実叉難陀 訳)	卷四四	宋版(詳細未詳)	○		東北大学	アジアむかしの本のも のがたり	アジアむかしの本のも のがたり
大方広仏華嚴經(実叉難陀 訳)	卷四五	宋版(詳細未詳)	○		東北大学	アジアむかしの本のも のがたり	アジアむかしの本のも のがたり
大周刊定衆経目録	卷九	宋版(詳細未詳)	○		大英図書館	(調査済)、大英図書館 所蔵和漢書経目録	(調査済)、大英図書館 所蔵和漢書経目録
佛母出生三法藏般若波羅蜜多 經	卷二十	元・普寧版	○		カリフォルニア大学バー クレイ校東アジア図書館	柏克萊加州大学東亜図 書館中文古籍善本書志	柏克萊加州大学東亜図 書館中文古籍善本書志
佛母出生三法藏般若波羅蜜多 經	卷二五	元・普寧版	○		カリフォルニア大学バー クレイ校東アジア図書館	柏克萊加州大学東亜図 書館中文古籍善本書志	柏克萊加州大学東亜図 書館中文古籍善本書志
大方広仏華嚴經	卷三一	宋版(詳細未詳)	○		カリフォルニア大学バー クレイ校東アジア図書館	柏克萊加州大学東亜図 書館中文古籍善本書志	柏克萊加州大学東亜図 書館中文古籍善本書志
波斯匿王太后崩塵盆身經	一卷	宋版(詳細未詳)	○		カリフォルニア大学バー クレイ校東アジア図書館	柏克萊加州大学東亜図 書館中文古籍善本書志	柏克萊加州大学東亜図 書館中文古籍善本書志

須摩提女経	一卷	宋版（詳細未詳）	○			カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館	柏克萊加州大学東亜図書館 中文古籍善本書志
大宝積経	卷五七	宋版（詳細未詳）	○			カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館	柏克萊加州大学東亜図書館 中文古籍善本書志
中阿含経	卷三	宋版（詳細未詳）	○			北京大学	梁春醪・呉栄子「一九九八」
中阿含経	卷四	宋版（詳細未詳）	○			北京大学	梁春醪・呉栄子「一九九八」
中阿含経	卷九	宋版（詳細未詳）	○			北京大学	梁春醪・呉栄子「一九九八」
中阿含経	卷十七	宋版（詳細未詳）	○			北京大学	梁春醪・呉栄子「一九九八」
雑阿含経	卷五	宋版（詳細未詳）	○			北京大学	梁春醪・呉栄子「一九九八」
雑阿含経	卷七	宋版（詳細未詳）	○			北京大学	梁春醪・呉栄子「一九九八」
雑阿含経	卷二八	宋版（詳細未詳）	○			北京大学	梁春醪・呉栄子「一九九八」
普曜経	卷五	宋版（詳細未詳）	○			北京大学	梁春醪・呉栄子「一九九八」
羅摩伽経	卷三	東禪寺版				国家図書館（台湾）	梁春醪・呉栄子「一九九八」
羅摩伽経	卷四	東禪寺版	○			国家図書館（台湾）	梁春醪・呉栄子「一九九八」
衆許摩訶帝経	卷八	宋末元初間刊	○			国立中央図書館台湾分館	中国訪書志
毘沙門天王経	一帖	宋末元初間刊	○			国立中央図書館台湾分館	中国訪書志

蘇悉地羯羅經	卷下	日本鎌倉末南北 朝初間刊	○		国立中央図書館台湾分館	中国訪書志
中阿含經	卷三二	宋版（詳細未詳）	○		佐々木月樵氏	第一回大藏会陳列目録

中国国家図書館所蔵の古写経が少なからずあるのは、楊守敬（一八三九―一九一五）によるところが大きい。彼は、明治十三年（一八八〇）から十七年まで日本に滞在し、その間に夥しい数の書籍等を購入し、中国へ持ち帰った。その中に、袋中蒐集一切経が含まれていたのである。楊守敬の死後、大量の蔵書は、中華民国政府が買い上げ、政事堂に収蔵、その後、半数以上が松坡図書館に収蔵された。松坡図書館の蔵書は、後に北京図書館に収蔵され、北京図書館は中国国家図書館と名を改め今に至る。

念仏寺蔵『過去現在因果経』五卷は、奈良時代の書写である。それには袋中の奥書があり「此五卷、古名筆故、自経蔵抽取、別函納之。住持能／守護而、可伝後代者也。」と記されてある。実際に経蔵より取り出して別置しておいたため、現在も散逸せずに念仏寺に残ったようである。

念仏寺では、袋中蒐集の後、一度經典を修補した時期があり、旧表紙を挟み込んで新しい表紙を付けたものがある。中国国家図書館蔵『金剛頂瑜伽他化自在天理趣会普賢修行念誦儀軌』などでは、新表紙が少々剥がれてきており、旧表紙に押された「一切経南都善光院」の朱印が覗き見える。

筆者が実見をした經典はまだほんの少しである。しかし、紙背の印などを詳細に調査し、袋中蒐集一切経の来歴が少し明らかになってきたので、次項に述べる。

三、来歴

前述したように、伝記等の文献から、袋中が浄瑠璃寺・笠置寺などから一切経を入手したことが知られる。しかし、現段階では、現存する袋中蒐集一切経の中から笠置寺と海住山寺の経典を判定することはできない。それとわかる奥書や蔵書印などがまだ見当たらないからである。ここでは、来歴の明らかなものについて述べていくことにする。

(一) 浄瑠璃寺

妙蓮寺蔵『金剛頂經金剛界秘密三摩地礼懺文』の奥書には次のようにある。

願以書寫力 父母及衆生 永離三惡趣 決定成菩提 自他社家内利益／西小田原之一切經内也。承安四年六月十日書之了。佛子融信之。⁷⁾

大東急記念文庫蔵『智炬陀羅尼經』の奥書も酷似したものである。

願以書寫力 父母及衆生 永離三惡趣 速證大覺位 自他法界同利益／承安四年六月十日書寫了。西小田原一切經内也。佛子融信之。⁸⁾

以上の二本は、西小田原の一切経、つまり西小田原山浄瑠璃寺一切経であり、承安四年(一一七四)、融信という者によって同日に書写されたことが知られる。

同じく大東急記念文庫蔵『説妙法決定罪障經』には次のような奥書がある。

願以之書寫 師長與父母 我等共法界 皆已成佛道／承安四年甲午六月七日寫之 僧信觀⁹⁾

また、知恩院蔵『差摩婆帝授記経』の奥書には「願以之書寫 師長與父母 我等共法界 皆已成佛道 執□信観^⑩」とあり、年号の記載はないが、『説妙法決定罪障経』とほぼ同文である。信観がどの僧であるかは不明であるが、浄瑠璃寺一切経と判定できる先の二本と同じく承安四年六月の書写であり、願文も酷似しており、浄瑠璃寺一切経ではないかと考えられる古写経である。

(二) 金峯山寺

現存する袋中蒐集一切経の中には、紙背に宝塔黒印が押されているものがある。『大谷大学図書館所蔵貴重書善本図録』によれば、それは金峯山寺一切経の印と推定されている。^⑪金峯山寺は、現在の奈良県吉野郡吉野町にあり、修験道の根本道場として知られている。金峯山寺一切経には二種類ある。一つは、慈応が、京都の人々に勧めて嘉保三年(一〇九六)三月十八日を期し、その一日のうちに一切経を書写したものであるが、それは一巻も現存しないようである。^⑫もう一つは、静厳が、保延六年(一一四〇)五月に人々に勧めて書写を行った一切経である。^⑬前掲書によれば、金峯山寺一切経の伝存する遺品に「保延六年庚申五月廿四日金峯山寺一切経内勧進聖人静厳」と述べられている。つまり、静厳による金峯山寺一切経が、後に袋中の手に渡ったのである。

念仏寺蔵『文殊仏利功德莊嚴経』巻下や中国国家図書館蔵『正法念処経』などが金峯山寺一切経であるが、現存する袋中蒐集一切経の中に前記のような本奥書のある金峯山寺一切経はない。

(三) 大和国山辺郡下深川莊杜頭御経

以下の三点には、酷似した奥書が見られる。

・中国国家図書館蔵『大集経月蔵分』巻二

大和州山邊郡下源川庄社頭御經也。／文安二乙丑季六月日／勸縁小比丘釋永圭謹誌

・大東急記念文庫蔵『大方等大集經』卷四

大和國山邊郡下深河庄社頭御經也。人々奉加。／文安二年乙丑三月十七日／勸縁 小比丘釋 永圭謹書¹⁴

・大東急記念文庫蔵『大般涅槃經』卷十四

大和州山邊郡下深川庄社頭御經也。人々奉加。／文安二季三月十七日／勸縁小比丘釋永圭謹誌¹⁵

いづれも「大和國山邊郡下深川莊社頭御經」で、釈永圭による文安二年（二四四五）の日付がある。『大集經月藏分』卷二には、一八八五年の楊守敬の跋があり、「此卷書写年月雖若草率不經□而古雅／有□□是八九百年物。末有文安二年題／識。則後人之筆也。」と述べている。つまり、文安二年の釈永圭の文は書写より後のもので、書写年代は跋文当時より八、九百年前としている。

『角川日本地名大辭典』などによれば、下深川莊は、南北朝期から見える莊園名で、興福寺寺門領である。また、備前高島村浄土寺蔵の『摩訶般若波羅蜜經』卷三十の奥書に「大和國山邊郡下深河莊社頭御經也。文安二乙丑歲三月十七日。人々奉加。勸縁永生 謹誌」と記すとある。¹⁶「永生」は永圭の誤りかと思われるが、これも前の三点と同様の一切經の内の一本であろう。「社頭」の「社」とは、現在、奈良市下深川町にある春日神社を指すのではないかと推測できるが、更に検討を要する。

(四) 「西山経蔵」黒印を持つ經典

紙背に「西山経蔵」と黒印のある經典がある。養鷗徹定は『古経搜索録』の中で「寛喜二年、三鉢寺證空、建宝塔、度聖經、供養千僧、薦於慈鎮和尚千日忌辰。此西山経蔵印、蓋此時所捺也。」と述べている。田中塊堂氏は、『日本古写経現存目録』の中で、「西山経蔵」印について「徹定師は寛喜二年慈鎮の千日忌辰に用いられた西

山經藏のものとして¹⁷⁾としか触れていない。確証があまりないので断定しにくいのであろうか。

中国国家図書館蔵『普遍光明清淨熾盛如意宝印心無能勝大明王隨求陀羅尼經』卷下紙背に「西山經藏」の印が押されてあるが、実はその經典には「承安三年癸巳五月五日／一校了」と奥書がある。承安三年（一一七三）は、寛喜二年（一一三〇）より遡ること約六十年、前述した浄瑠璃寺一切經奥書の年号の前年である。浄瑠璃寺は「西小田原山浄瑠璃寺」といい、かつて「西小田原寺」などと呼ばれていた。『浄瑠璃寺流記事』には、東小田原にあった随願寺を「東山」と記し、浄瑠璃寺と合わせて「東西両山」とした記述が見える。浄瑠璃寺が自身を「西山」とし、「西山經藏」という印を押したと考えられないであろうか。この点に関しても、更に検討を要する。

（五）その他

前述した四種以外で來歴のわかるものがある。「太官大寺」朱印を持つ『阿惟越致遮經』卷中・下、「中臣寺印」朱印を持つ『優婆夷淨行法門經』、「円覚寺印」朱印を持つ『断肉經』などである。三部ともすべて知恩院所蔵である。

「太官大寺」について、養鷗徹定は、元は百濟寺といい、現在の大安寺であると²⁰⁾する。大安寺は南都七大寺の一つで現在の奈良市に位置する。

「中臣寺」については、養鷗徹定は「寺在和州宇知郡。一曰法光寺。大織冠藤原氏之所建也。故今日藤原寺。」²¹⁾という。現在藤原寺は廃寺となり存在しないが、元は現在の奈良県高市郡明日香村小原にあったらしい。²²⁾

「円覚寺印」について、養鷗徹定は『古経搜索録』で次のように説明している。

三代實録曰。元慶五年十二月四日戊寅、清和院奉爲先太上天皇、於圓覺寺設周忌齋會、供養一切經、太上天皇在祚之日所寫也。今此經亦其一也。

養鷗徹定は、清和天皇が亡くなった京都の円覚寺で書写されたものであるとしている。

以上のように、袋中蒐集一切経の入手先を見ると、念仏寺のある奈良周辺であることがわかる。江戸初期に、山城国中南部から大和国に存在していた入手可能な古写経を蒐集していたということが明らかになった。

おわりに

現段階で明らかになった現存袋中蒐集一切経は以上の通りである。古写経に残る蔵書印などから、袋中とその弟子たちが、山城国と大和国を中心に一切経を求めてまわった姿が見えてきた。遠方まで出向いて入手したというよりは、比較的妥当な行動範囲内で入手したように思える。畿内自体に古写経が多く存在していたことも、それを可能にさせた要因であろう。

本論で述べたものは、袋中蒐集一切経の全体像からすればほんの一部に過ぎない。既に焼失などしてしまった経典はあるであろうが、全体像を浮かび上げらせることで、当時の一切経の保管状況、寺院の状況を明らかに出来るという意義がある。今後は、更なる袋中蒐集一切経の来歴の解明を目指したい。

【附記】

本研究は、平成十九年度科学研究費補助金（若手研究（B））によるものである。

中国国家図書館所蔵の袋中蒐集一切経を中心として他機関の所蔵経典についても梶浦晋氏から大部分ご教示いただいた。ここに深く謝意を表する次第である。また、中国国家図書館所蔵の袋中蒐集一切経の閲覧調査に関して便宜を図っていただいた

同館善本特蔵部李際寧氏に心から謝意を表したい。その際、調査補助をしていただいた中国政府奨学金高級進修生（中国人民大学）の上杉智英氏にもここで謝意を表したい。また柴崎昭和氏にも数点（）指摘いただき、謝意を表するものである。

注

(1) 横山重『琉球神道記』三〇九―三一〇頁。横山氏は底本には鶯瀧寺本（心光庵旧蔵。心光庵とは、袋中が瓶原において居を構えた庵の名）を用い、校異に袋中庵本を用いている。「浄琉璃寺の殿堂破壊に及ければ、闕本の一切経をあがなひて修復せんと、衆僧の評議一定しぬ、上人これをきき、使を遣し若干銀を贈りて、經典を奉請す」のところが、袋中庵本では「浄琉璃寺の殿堂、殊の外に破壊せり。且また、欠本の一切経を修復せんと、衆僧の評議まちまちなりければ、上人このよしを聞て、使をつかはして、若干銀を贈り給ふ。」となっており、若干意味が異なっている。

(2) 念仏寺所蔵文書の嘉永七年（一八五四）「口上覚」の中に、数本の棟札を写した部分がある。その内の一つである。本文を挙げた棟札そのものは現存しない。

(3) 横山重『琉球神道記』二七六頁。

(4) 檀王法林寺蔵『頻毘娑羅王詣仏供養経』の奥書には次のようにある。

此頻毘娑羅詣佛經一卷者、／光明皇后玉筆、委見末書本南都西大寺／法塔院安之、紛失而、入我手、令珍重而、／奉納三條法林寺函中矣。可永守護、備／寺□寶者也。／團王老能住持正□／寛永三丙寅正月廿五日云尔／山州相樂郡瓶原山居／弁蓮社袋中良定（花押）

(5) 藤堂恭俊「養鷗徹底上人の古経搜索録」五一―五四頁、木本弘昭「徹底上人年譜稿（増訂）」九五頁。

(6) 藤堂恭俊「一九七三」では、四十四部の他に『是法非法経』一卷と『冥報記』三巻について、もし書き入れが袋中筆であれば四十六部と言えるとするが、不確定であるのでここでは知恩院所蔵袋中蒐集一切経から外しておく。

- (7) 『京都妙蓮寺藏』松尾社一切経『調査報告書』二八九頁。
- (8) 川瀬一馬『大東急記念文庫貴重書解題 仏書之部』六十頁。
前掲書六十頁。
- (9) 小林圓達編『華頂山古経目録』四十頁。
- (10) 大谷大学図書館編集『大谷大学図書館所蔵貴重書善本図録』六三頁。
- (11) 首藤善樹『金峯山寺史』六二、六三頁。
- (12) 前掲書六四頁。
- (13) 川瀬一馬『大東急記念文庫貴重書解題 仏書之部』六三頁。
前掲書一、四頁。
- (14) 『角川日本地名大辞典29奈良県』五五六頁。
- (15) 田中塊堂『日本古写経現存目録』二二三頁。
- (16) 『大日本仏教全書』一一九卷一六六頁など。
- (17) 『大日本仏教全書』一一九卷一六六頁上段。
- (18) 養鷗徹定『古経搜索録』に次のようにある。
- (19) 大官寺、舊名百濟寺。天武天皇白鳳十二年、移高市郡、改曰大官大寺。和銅三年、又移平城。時道慈僧正、獻唐西明寺圖。為標準云、天平元年脩營之。改名大安寺。
- (20) 養鷗徹定『古経搜索録』参照。
- (21) 『日本歴史地名体系30奈良県の地名』二七四頁下段参照。それによれば、小原は藤原鎌足の誕生地と伝え、伝法光寺跡・産湯井跡・誕生山の俗称があるらしい。誕生山の東南に、江戸時代まで鎌足誕生地とされる産湯井があり、その東
- (22)

袋中蒐集一切経の来歴と現況（三宅）

五

に小原神社があった。小原神社はもと東隣にあった東源寺の鎮守で、東源寺は藤原寺の音読・改字というようである。小原神社は現在もある。

【参考文献】

○著書・論文

阿部隆一『中国訪書志』増訂版（汲古書院、一九八三年）

池田温「中国現存日本古文文献の一端——特に楊守敬將來品」（日本歴史学会編『日本歴史』五七五、一九九六年四月）

池田温「楊守敬將來日本古文文献について」（筈谷和比古編『中国に伝存の日本関係典籍と文化財』二〇〇二年）

石塚晴通「中国に伝存する日本古写仏典——高山寺旧蔵本を中心として」（筈谷和比古編『中国に伝存の日本関係典籍と文化財』二〇〇二年）

養鷗徹定著・藤原弘道編『古経搜索録』（藤原弘道、一九七二年）

養鷗徹定『古経堂詩文鈔』（徹定上人遺文集刊行會、一九七七～一九七八年）

裏辻憲道「徹定上人伝私考」（『仏教文化研究』三六、一九九一年九月）

大谷敏夫「楊守敬とその時代」（『書論』二六、一九九〇年九月）

本本弘昭「徹定上人年譜稿（増訂）」（『仏教文化研究』三六、一九九一年九月）

小島章見「徹定上人の著作論考——特に嘉永年代を中心とする壮年期の著作について」（『仏教文化研究』三六、一九九一年

九月）

信ヶ原良哉編『袋中上人餘光』（檀王法林寺、一九三八年）

首藤善樹『金峯山寺史』（金峯山寺、二〇〇四年）

田中塊堂『古寫經綜鑿』（鵜故郷舎出版部、一九四二年）

藤堂恭俊『養鷗徹定上人の古経搜索録』（『日本仏教学会年報』三八、一九七三年三月）

藤堂恭俊『養鷗徹定の古経蒐集と南都念仏寺蔵古経』（『史学仏教学論集 藤原弘道先生古稀記念』、一九七三年）

藤堂祐範『袋中良定上人傳』（『浄土教文化史論』、山喜房佛書林、一九七九年）

藤堂祐範『袋中良定上人年譜』（『浄土教文化史論』、山喜房佛書林、一九七九年）

永井隆正『養鷗徹定上人』『新什物目録』（『浄土宗学研究』一九、一九九三年三月）

温井禎祥『楊守敬 日本訪書の経緯と文化的貢献』（『大正大学研究紀要』七九、一九九四年三月）

原田禹雄訳注『袋中上人絵詞伝』（榕樹書林、二〇〇二年）

傅璇琮『中国国家図書館所蔵日本版古籍について』（『笠谷和比古編』『中国に伝存の日本関係典籍と文化財』、二〇〇二年）

牧田諦亮『徹定上人の生涯』（『仏教文化研究』三六、一九九一年九月）

牧田諦亮・藤堂恭俊『徹定上人寄贈の知恩院什宝』（寺本哲榮編『徹定上人』、総本山知恩院、一九九〇年）

真柳誠『清国末期における日本漢方医学書籍の伝入と変遷』（工藤訓正・細川喜代治編『矢数道明先生喜寿記念文集』、一九

八三年）

三宅徹誠『袋中上人の一切経蒐集について』（『仏教論叢』四九、二〇〇五年三月）

三宅徹誠『中国国家図書館所蔵袋中蒐集文献について』（『仏教論叢』五一、二〇〇七年三月）

楊守敬『日本訪書志』（楊守敬著・謝承仁主編『楊守敬集』第八冊、一九九七年）

楊世燦繪編纂『楊守敬年譜』（湖北人民出版社、二〇〇四年）

横山重『琉球神道記 弁蓮社袋中集』（角川書店、一九七〇年）宜昌市政協文史資料委員會・宜昌市政協文史資料委員會編

梁春醪・吳栄子『浅談宋版仏経』（『国家図書館館刊』第二期、一九九八年十二月）

袋中蒐集一切経の来歴と現況（三宅）

○目録類

- 磯部彰編『アジアむかしの本のがたり』（「東アジア出版文化の研究」総括班、二〇〇二年）
- 大谷大学図書館編集『大谷大学図書館所蔵貴重書善本図録』（大谷大学、一九九八年）
- 恩頼堂文庫研究会編『四天王寺国際仏教大学所蔵恩頼堂文庫分類目録』（四天王寺国際仏教大学図書館、二〇〇三年）
- 川瀬一馬編著『お茶の水図書館蔵新修成篋堂文庫善本書目』（お茶の水図書館、一九九二年）
- 川瀬一馬『大東急記念文庫貴重書解題 仏書之部』（大東急記念文庫、一九五六年）
- 川瀬一馬編『龍門文庫善本書目』（阪本龍門文庫、一九八二年）
- 川瀬一馬・岡崎久司共編『大英図書館所蔵和漢書総目録』（講談社、一九九六年）
- 京都国立博物館編『袋中上人と檀王法林寺』（京都国立博物館、一九八八年）
- 京都府立総合資料館図書部編『京都府立総合資料館貴重書目録』（京都府立総合資料館、一九七一年）
- 佼成図書館編『佼成図書館善本目録』（佼成図書館、一九九五年）
- 小林圓達編『華頂山古経目録』（総本山知恩院、一九二五年）
- 静嘉堂文庫編『静嘉堂文庫宋元版図録』（汲古書院、一九九二年）
- 大蔵会編『大蔵会展観目録』（文華堂書店、一九八一年）
- 大東急記念文庫編『大東急記念文庫書目』（大東急記念文庫、一九五五年）
- 田中塊堂『日本古写経现存目録』（思文閣出版、一九七三年）
- 東北大学附属図書館編『東北大学附属図書館別置本目録』（東北大学附属図書館、一九六二年）
- 中尾堯編集『京都妙蓮寺蔵』松尾社一切経『調査報告書』（大塚巧芸社、一九九七年）

堀池春峰・田中稔・山本信吉編 『唐招提寺古経選』(中央公論美術出版、一九七五年)

柏克萊加州大学東亜図書館編 『柏克萊加州大学東亜図書館中文古籍善本書志』(上海古籍出版社、二〇〇五年)

法隆寺昭和資財帳編集委員会編 『法隆寺の至宝』七(小学館、一九九七年)

Summary

The history and present state of the Buddhist sutras collected by Taichū

Tetsujo Miyake

Taichū 袋中 (1552-1639) is the priest who belonged to the Nago'e sect 名越派 of Jōdo shū 浄土宗, that is the school of Pure Land Buddhism established by Hōnen 法然 (1133-1212) in Japan. In the 8th year of Genna (1622), he moved to Nara and built Nembutsuji temple 念仏寺. Then he collected the Buddhist sutras, both manuscripts and editions, with his disciples in various places and copied for the sutras those were not able to be collected. Finally, he kept them in the Buddhist sutra storehouse of Nembutsuji temple. But the Buddhist sutras collected by him were scattered and lost. Now, some of them exist in all over the world.

Its history was cleared by the investigation of the Buddhist sutras collected by him and the check of the catalogues of libraries and museums which possess them in part now. By checking of the colophons and seals of their sutras, the original owners of them were cleared. Those were Jōruriji temple 浄瑠璃寺 in Kyoto, Kimpusenji temple 金峯山寺 in Nara, and the other temples that existed in Kyoto or Nara once. It is likely that Taichū collected the sutras existed in Kyoto and Nara, that is to say the vicinity of Nembutsuji temple, in the beginning of Edo period. The extent of his collecting sutras was relatively narrow. Because many of the Buddhist manuscripts or editions existed in that area.

*Researcher,
International Institute
for Buddhist Studies*